

中 学 校

平成 30 年度

# 教育研究員報告書

国 語

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究の仮説	3
	1 教材文を読む目的が明確となる学習課題の工夫	3
	2 第1次で学習した情報の整理の仕方を第2次で活用して教材文を読む単元構成の工夫	3
IV	研究の方法	4
	1 調査研究	4
	2 授業検討・検証授業	4
	3 研究構想図	5
V	研究の内容	6
	〈指導事例1：第1学年〉	6
	〈指導事例2：第2学年〉	12
	〈指導事例3：第3学年〉	18
VI	研究のまとめ	24

## 研究主題

# 目的に応じて文章を読み、的確に内容を解釈する力を育成する指導の工夫

## I 研究主題設定の理由

急速に情報化が進む現代社会においては、様々な媒体から目的に応じて必要な情報を取り出して比較したり、分類したり、関係付けたりすることで整理し、内容を的確に理解した上で、自分の考えを構築する力が求められる。中央教育審議会も、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成 28 年 12 月 21 日）（以下、「答申」と表記。）において、我が国の子供たちの課題として、「文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることは喫緊の課題である。」と、考えの形成に必要となる「文章を精査・解釈する力」を課題として指摘している。

実際に、「平成 30 年度全国学力・学習状況調査」（文部科学省）の国語に関する調査（中学校第 3 学年対象）では、「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くこと」に課題が認められた（平均正答率 13.3%）。また、「平成 30 年度児童・生徒の学力向上を図るための調査」（東京都教育委員会）の国語に関する調査（中学校第 2 学年対象）では、教科の平均正答率（72.5%）に対して「読み取った情報を基に、理解・解釈・推論し、課題を解決すること」の平均正答率（62.4%）が低かった。

これらのことから、中学校における「読むこと」の指導では、説明的な文章の内容を踏まえて自分の考えをもつことや、述べられている内容の信頼性や客観性を吟味して自分の考えに取り入れることなど、自分の考えを形成するために必要となる「文章を精査・解釈する力」を身に付けさせることに課題があると言える。これは、説明的な文章を扱う授業において、筆者の主張を理解させることに重点が置かれており、目的に応じて文章から読み取った情報を整理して的確に内容を解釈させる指導が十分に行われていないことに一因があると考えられる。

そこで、本研究では、研究主題を「目的に応じて文章を読み、的確に内容を解釈する力を育成する指導の工夫」とし、「読むこと」の領域で求められる指導の工夫について研究を行うこととした。

なお、「解釈」については、中学校学習指導要領解説国語編（平成 29 年 7 月）（以下、「解説」と表記。）では『「精査・解釈」とは、文章の内容や形式に着目して読み、目的に応じて意味付けたり考えたりすることである。』と示されている。このことを踏まえ、本研究における「的確に内容を解釈する力」とは、「文章の内容に着目して読み、目的に応じて意味付けたり考えたりする力」とする。

## II 研究の視点

目的に応じて文章を読み、的確に内容を解釈する力を生徒一人一人に身に付けさせるため

の効果的な指導の工夫を示すことが、本研究の目指すところである。目的に応じて文章の内容を的確に解釈するためには、まず「何のためにこの文章を読むのか」という目的を明確に意識しながら文章を読む必要がある。その上で、目的に応じて必要な情報を文章から取り出し、比較したり、分類したり、関係付けたりするなどして情報を適切に整理することが重要である。このような情報の整理を通して文章の内容を的確に解釈する力を育むことが、自分の考えを構築する力の育成につながる。

平成 29 年 3 月に告示された中学校学習指導要領（以下、「新学習指導要領」と表記。）では、文章の内容に関する「精査・解釈」の指導事項を表 1 のとおり示している。

表 1

	文章の内容に関する「精査・解釈」の指導事項
第 1 学年	ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。
第 2 学年	イ 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること。
第 3 学年	イ 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること。

「解説」では、これらの指導事項のうち、第 1 学年における「目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈すること」及び第 2 学年における「目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈すること」は、主に説明的な文章における指導事項とされている。また、第 3 学年のイの指導事項を指導する際には、説明的な文章に述べられている内容の信頼性や客観性を吟味しながら読ませた上で、文章に表れているものの見方や考え方について、自分の知識や経験などと照らし合わせて納得や共感ができるか否かなどを考えさせることが重要であると示されている。

上記を踏まえ、本研究では、説明的な文章を教材として、「読むこと」の指導事項のうち「精査・解釈」で示されている資質・能力の育成に重点を置いた指導の工夫について研究していくこととする。

また、情報を取り出したり活用したりする際に必要となる基礎的な知識や基本的な技能について、「新学習指導要領」では、〔知識及び技能〕の「情報の扱い方に関する事項」の「情報の整理」に示されている。

したがって、本研究では表 2 のとおり、「読むこと」の指導の際に、〔知識及び技能〕の「情報の扱い方に関する事項」（「情報の整理」）で示されている指導事項を関連させて扱う。

表 2

	本研究において重点的に育成を目指す力	関連させて指導する知識及び技能
第 1 学年	目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈する力	比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使うこと。
第 2 学年	目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈する力	情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと。
第 3 学年	文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考える力	情報の信頼性の確かめ方を理解し使うこと。

### Ⅲ 研究の仮説

本研究では、以下の2点の指導方法の工夫に取り組むことで、目的に応じて文章を読み、的確に内容を解釈する力を身に付けさせることができると考える。

#### 1 教材文を読む目的が明確となる学習課題の工夫

目的に応じて文章を読み、的確に内容を解釈するためには、読む目的に応じて必要な情報を文章から取り出す必要がある。その上で、それらの情報を目的に沿って比較・分類・関係付けて整理することが重要である。そのためには、何のためにこの文章を読むのかという目的が明確でなければならない。

社会生活では、何らかの目的をもった読み手が文章を選び、その文章から必要な情報を得るというのが一般的である。しかし、国語の授業では、教科書に掲載されている文章や教師が用意した文章を生徒が読むことが多い。したがって、それらの教材文を使用する際には、何のために読むのかという目的が生徒にとって明確となるような学習課題を教師が設定することが重要となる。

そこで、本研究では、表3のように、学年ごとに生徒の発達段階や学校生活の実態を考慮しながら、教材文を読む目的が生徒にとって明確となる学習課題を設定し、その学習課題を解決するための言語活動に取り組ませることとする。

表3

学年	身に付けさせたい力	学習課題	言語活動
1	目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈する力	小学校6年生が理解できるようにクニマスについてのQ&Aをつくる。	説明的な文章「幻の魚は生きていた」を読み、Q&Aの作成に必要な情報を得て、自分の考えをまとめる。
2	目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈する力	先人や達人、名人の言葉を基に同級生に助言する。	説明的な文章「達人のことば」等の文章を読み、中学校生活を充実させるために必要な情報を得て、同級生への助言をまとめる。
3	文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考える力	興味・関心のある話題に関する新聞の論説に対する意見を書く。	新聞の論説を読み、内容の信頼性や客観性を吟味しながら、自分の考えを述べる。

#### 2 第1次で学習した情報の整理の仕方を第2次で活用して教材文を読む単元構成の工夫

目的に応じて情報を取り出す方法としては、文章の中で必要だと思った部分に印を付けたリ、必要な部分を付箋等を書き抜いたりしながら読み進めることなどが考えられる。また、取り出した情報を整理する方法としては、必要な情報をメモした付箋を模造紙に貼って分類したり、取り出した情報を表にまとめて比較したり、ベン図にまとめて共通点や相違点を明らかにしたりするなどの方法が考えられる。さらに、情報の事実関係や主張の根拠、情報の信頼性などを確かめることも情報を整理する上で大切である。このような情報の整理の仕方についての知識及び技能を身に付け、活用しながら文章を読むことができれば、生徒は目的に応じて文章の内容を的確に解釈できるようになると考える。

また、「解説」では、単元など内容や時間のまとまりの中で「学びの深まりをつくり出すために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業改善を進めることが求められる」と示されている。

そこで、本研究では、表4のとおり、単元を第1次（教師が教える場面）と第2次（生徒が考える場面）に分けて構成することとした。第1次では、単元で扱う情報の整理の仕方を理解するのに適した補助教材（教師が作成したもの）を用いながら、情報の整理の仕方を生徒に教えることが中心となる。第2次では、第1次で学習した情報の整理の仕方を活用しながら文章を読み、生徒が考えることが中心となる。

表4

第1次で学習した情報の整理の仕方を第2次で活用して教材文を読む単元構成の工夫		
第1次	ねらい	本単元で必要となる「情報の整理の仕方」についての知識及び技能を理解させる。
	学習活動	教師が作成した補助教材から情報を取り出し、整理する。
第2次	ねらい	第1次で理解した「情報の整理の仕方」を活用させて教材文を読ませることで、「情報の整理の仕方」の習得と身に付けさせたい力の育成を図る。
	学習活動	「情報の整理の仕方」を活用しながら教材文を読み、単元の学習課題を解決する。

単元を通して、このような学習活動に取り組むことで、生徒は情報の整理の仕方を活用しながら、文章に表された原因と結果、意見と根拠、具体と抽象といった情報と情報との複雑な関係を的確に把握し、解釈することができるようになると思う。

本研究では、以上のことを踏まえ、次のように研究の仮説を設定し、検証授業を行っていくこととする。

—仮説—

教材文を読む目的が明確となる学習課題を工夫するとともに、第1次で学習した情報の整理の仕方を第2次で活用させる単元を構成して指導することにより、生徒は、目的に応じて文章を読み、的確に内容を解釈することができるようになるであろう。

#### IV 研究の方法

##### 1 調査研究

平成26年度から平成30年度までの「全国学力・学習状況調査」（文部科学省）の国語に関する調査（中学校第3学年対象）及び「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（東京都教育委員会）の国語に関する調査（中学校第2学年対象）等の調査結果を分析し、東京都の中学生の国語の課題を明らかにする。

##### 2 授業検討・検証授業

研究の視点に基づき、単元の学習において、以下のような指導の工夫を行うことで、「目的に応じて文章を読み、的確に内容を解釈する力」の育成を図る。

- (1) 教材文を読む目的が明確となる学習課題の工夫
- (2) 第1次で学習した情報の整理の仕方を第2次で活用して教材文を読む単元構成の工夫
 

このような単元を学年ごとに設定し、授業を行った後、ワークシートに生徒が記述した内容を基に、以下の観点から成果と課題を考察することによって仮説を検証する。

  - (1) 目的に沿って必要な情報を取り出すことができたか。
  - (2) 目的に沿って取り出した情報を整理することができたか。
  - (3) 情報から読み取ったことを基に自分の解釈をまとめることができたか。



### 3 研究構想図

#### 平成 30 年度教育研究員 中学校国語部会 研究構想図

**【新学習指導要領 国語 目標】**

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

<p style="text-align: center;"><b>【生徒の実態】</b></p> <p>文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることは喫緊の課題（「答申」）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「平成 30 年度全国学力・学習状況調査」（文部科学省） 「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く」→平均正答率 13.3%</li> <li>・「平成 30 年度児童・生徒の学力向上を図るための調査」（東京都教育委員会） 「読み取った情報を基に、理解・解釈・推論し、課題を解決すること」→平均正答率 62.4%</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>【指導の実態】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の主張を生徒に理解させることに重点</li> <li>・目的に応じて文章から読み取った情報を整理して的確に内容を解釈させる指導が不十分</li> </ul>
---	--

**【身に付けさせたい力】**

第 1 学年……目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈する力  
 第 2 学年……目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈する力  
 第 3 学年……文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考える力

**研究主題**  
 目的に応じて文章を読み、的確に内容を解釈する力を育成する指導の工夫

—仮説—

教材文を読む目的が明確となる学習課題を工夫するとともに、第 1 次で学習した情報の整理の仕方を第 2 次で活用させる単元を構成して指導することにより、生徒は、目的に応じて文章を読み、的確に内容を解釈することができるようになるであろう。

**【検証授業】**

<p style="text-align: center;">教材文を読む目的が明確となる学習課題の工夫</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">学年</th> <th style="width: 40%;">学習課題</th> <th style="width: 50%;">言語活動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>小学校 6 年生が理解できるようにクニマスについての Q &amp; A をつくる。</td> <td>説明的な文章「幻の魚は生きていた」を読み、Q &amp; A の作成に必要な情報を得て、自分の考えをまとめる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>先人や達人、名人の言葉を基に同級生に助言する。</td> <td>説明的な文章「達人のことば」等の文章を読み、中学校生活を充実させるために必要な情報を得て、同級生への助言をまとめる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>興味・関心のある話題に関する新聞の論説に対する意見を書く。</td> <td>新聞の論説を読み、内容の信頼性や客観性を吟味しながら、自分の考えを述べる。</td> </tr> </tbody> </table>	学年	学習課題	言語活動	1	小学校 6 年生が理解できるようにクニマスについての Q & A をつくる。	説明的な文章「幻の魚は生きていた」を読み、Q & A の作成に必要な情報を得て、自分の考えをまとめる。	2	先人や達人、名人の言葉を基に同級生に助言する。	説明的な文章「達人のことば」等の文章を読み、中学校生活を充実させるために必要な情報を得て、同級生への助言をまとめる。	3	興味・関心のある話題に関する新聞の論説に対する意見を書く。	新聞の論説を読み、内容の信頼性や客観性を吟味しながら、自分の考えを述べる。	<p style="text-align: center;">第 1 次で学習した情報の整理の仕方を第 2 次で活用して教材文を読む単元構成の工夫</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">第 1 次</td> <td style="width: 10%;">ねらい</td> <td style="width: 80%;">本単元で必要となる「情報の整理の仕方」についての知識及び技能を理解させる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>学習活動</td> <td>教師が作成した補助教材から情報を取り出し、整理する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">第 2 次</td> <td>ねらい</td> <td>第 1 次で理解した「情報の整理の仕方」を活用させて教材文を読ませることで、「情報の整理の仕方」の習得と身に付けさせたい力の育成を図る。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>学習活動</td> <td>「情報の整理の仕方」を活用しながら教材文を読み、単元の学習課題を解決する。</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※各学年共通</p>	第 1 次	ねらい	本単元で必要となる「情報の整理の仕方」についての知識及び技能を理解させる。		学習活動	教師が作成した補助教材から情報を取り出し、整理する。	第 2 次	ねらい	第 1 次で理解した「情報の整理の仕方」を活用させて教材文を読ませることで、「情報の整理の仕方」の習得と身に付けさせたい力の育成を図る。		学習活動	「情報の整理の仕方」を活用しながら教材文を読み、単元の学習課題を解決する。
学年	学習課題	言語活動																							
1	小学校 6 年生が理解できるようにクニマスについての Q & A をつくる。	説明的な文章「幻の魚は生きていた」を読み、Q & A の作成に必要な情報を得て、自分の考えをまとめる。																							
2	先人や達人、名人の言葉を基に同級生に助言する。	説明的な文章「達人のことば」等の文章を読み、中学校生活を充実させるために必要な情報を得て、同級生への助言をまとめる。																							
3	興味・関心のある話題に関する新聞の論説に対する意見を書く。	新聞の論説を読み、内容の信頼性や客観性を吟味しながら、自分の考えを述べる。																							
第 1 次	ねらい	本単元で必要となる「情報の整理の仕方」についての知識及び技能を理解させる。																							
	学習活動	教師が作成した補助教材から情報を取り出し、整理する。																							
第 2 次	ねらい	第 1 次で理解した「情報の整理の仕方」を活用させて教材文を読ませることで、「情報の整理の仕方」の習得と身に付けさせたい力の育成を図る。																							
	学習活動	「情報の整理の仕方」を活用しながら教材文を読み、単元の学習課題を解決する。																							

**【研究の成果と課題】**

検証授業を行った後、ワークシートに生徒が記述した内容を基に、以下の観点から成果と課題を考察することによって仮説を検証する。

- (1) 目的に沿って必要な情報を取り出すことができたか。
- (2) 目的に沿って取り出した情報を整理することができたか。
- (3) 情報から読み取ったことを基に自分の解釈をまとめることができたか。

**研究で主に扱う指導事項（「新学習指導要領」）**

〔知識及び技能〕 情報の扱い方に関する事項 イ（第 1 学年～第 3 学年）  
 〔思考力、判断力、表現力等〕 読むこと 第 1 学年 ウ、第 2 学年 イ、第 3 学年 イ

## V 研究の内容

〈指導事例 1：第 1 学年〉 目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈する力を育成する指導の事例

### 1 単元名

クニマスについての Q & A をつくろう

～目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈する～

### 2 単元の目標

目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができる。

### 3 評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

- ・クニマスの Q & A をつくるために必要な情報を文章から取り出し、情報を整理して内容を解釈しようとしている。

【読む能力】

- ・クニマスの Q & A をつくるために文章を読み、必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。  
（〔思考力、判断力、表現力等〕 C 読むこと (1) ウ）

【言語についての知識・理解・技能】

- ・比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。  
（〔知識及び技能〕 (2) イ）

### 4 教材

- ・教材文（「幻の魚は生きていた」(中坊徹次「国語 1」光村図書)
- ・補助教材（「ペンギンの防寒着」(上田一生「現代の国語 1」三省堂)
- ・ワークシート

### 5 主な学習活動

#### (1) 単元の展開（全 4 時間）

		学習活動	指導上の留意点
第 1 次	第 1 時	○ 単元の学習の見通しをもつ。 ○ 補助教材を活用して、情報の整理の仕方を理解する。	・単元の学習目標及び学習課題を理解させる。 ・情報の整理の仕方を理解させる。
第 2 次	第 2 時	○ 教材文を読み、小学校 6 年生向けのクニマスに関する Q & A をつくるために必要な情報を文章から取り出す。	・教材文の構造と内容を簡単に捉えさせた上で質問を考えさせ、質問の回答に必要な情報を取り出させる。
	第 3 時	○ 教材文を読み、グループごとに Q & A を作成するのに必要な情報を整理する。	・第 1 時で学習した情報の整理の仕方を想起させ、活用させる。
	第 4 時	○ 目的に沿った内容になるように、グループごとに Q & A を作成し、相互評価をする。 ○ 単元の学習を振り返る。	・整理した複数の情報の関係を踏まえ、小学校 6 年生が理解できるように回答をまとめさせる。 ・単元の学習を通して自分ができるようになったことなどを振り返らせる。



(2) 指導の展開例

第1時

① 本時の目標

比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使う。

② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
<p>○ 単元の目標及び学習課題を把握する。</p> <p>○ 補助教材を読む。</p> <p>○ 回答に必要なだと思った情報を比較しながら、重要度によって分類し、説明の順序を考えて関係付ける。</p> <p>○ 情報を整理したメモを基に、回答をまとめる。</p> <p>○ 本時の学習を振り返る。</p>	<p>・ 目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈する力を身に付けるために、小学校6年生に読ませるクニマスについてのQ&amp;Aをつくるという学習課題に取り組むことを理解させる。</p> <p>・ 「ペンギンはどうして寒い南極で暮らせるのでしょうか。」という質問に対する回答の作成を目的として補助教材を読ませる。</p> <p>・ 回答に必要なだと考える情報に印を付けさせ、発表させる。</p> <p>・ 取り出した情報を基に、教師の発問に答えさせながら、「回答の中心となる情報」と「付加的な説明に用いる情報」に分類させる。</p> <p>・ 「付加的な説明に用いる情報」については、教師の発問に答えさせることで、説明の順序に基づいて順序立てて系統化する方法を理解させる。</p> <p>・ 整理した情報を基に教師が解説しながら回答をまとめさせることで、要約の仕方を確認する。</p> <p>・ 文章から必要な情報を取り出して整理する際に大切だと思ったことなどを考えさせ、数名に発表させる。</p>	<p>○ 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。〔ワークシート〕</p>

## 第2時

### ① 本時の目標

クニマスのQ&Aをつくるために必要な情報を文章から取り出す。

### ② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習の見通しをもつ。</li> <li>○ 教材文を読み、内容のまとめごとに何について書かれているかを理解する。</li> <li>○ 小学校6年生向けのクニマスについてのQ&amp;Aにふさわしい質問を考える。</li> <li>○ 質問の回答に必要な情報を取り出す。</li> <li>○ 本時の学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クニマスのQ&amp;Aをつくるために文章を読み、必要な情報を取り出すことを理解させる。</li> <li>・クニマスの特色、絶滅の理由、西湖で発見された経緯、西湖で生きていた理由などが説明されていることを理解させる。</li> <li>・小学校6年生が理解できるQ&amp;Aになるような質問を考えさせる。</li> <li>・質問の回答に必要なだと思う情報に印を付けさせる。</li> <li>・質問の回答に必要なだと思う情報を取り出す際に大切だと思ったことなどを考えさせ、数名に発表させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ クニマスのQ&amp;Aをつくるために必要な情報を文章から取り出そうとしている。 〔教材文・観察〕</li> </ul>

## 第3時

### ① 本時の目標

クニマスのQ&Aをつくるために必要な情報を、比較や分類、関係付けなどして整理する。

### ② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習の見通しをもつ。</li> <li>○ グループごとに、「回答に必要な情報」を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クニマスのQ&amp;Aをつくるために必要な情報を、比較や分類、関係付けなどして整理することを理解させる。</li> <li>・前時に印を付けた情報を見せ合いながら、Q&amp;Aの回答に必要なだと思う情報について話し合わせる。</li> </ul>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Q &amp; Aの回答に必要な情報を整理する。</li> <li>○ 整理した情報の適否を考える。</li> <li>○ 本時の学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1時で学習した情報の整理の仕方を想起させる。</li> <li>・各質問の回答を作成する担当者を決め、自分の担当した回答に必要な情報を整理させる。</li> <li>・担当者が情報を整理したワークシートをグループで回し読みさせ、小学校6年生が理解できるQ &amp; Aになっているかという観点で、情報の過不足などが付いた点を書き込ませる。</li> <li>・第1時で学習した情報の整理の仕方をどのように活用したかを振り返らせ、学びが生きたことを自覚させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。 [ワークシート]</li> </ul>
---	--	--

#### 第4時

##### ① 本時の目標

クニマスのQ & Aをつくるために必要な情報に着目して要約し、内容を解釈する。

##### ② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・[評価方法]
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習の見通しをもつ。</li> <li>○ 前時に整理した情報を基に、Q &amp; Aの回答をまとめる。</li> <li>○ 自分たちが作成したQ &amp; Aを他のグループと交換し、相互評価をする。</li> <li>○ 単元の学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クニマスのQ &amp; Aをつくるために必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することを理解させる。</li> <li>・前時に整理した情報を基に、小学校6年生が理解できるような語句や言い回しで回答をまとめさせ、工夫した点をワークシートに書き込ませる。</li> <li>・作成したQ &amp; Aを交換し、小学校6年生が理解するために必要な情報が書かれているか、情報を提示する順序が適切かを互いに評価し合う。</li> <li>・本単元の学習を通して自分ができるようになったことや、学習したことを今後どのように活用したいかをまとめさせ、数名に発表させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ クニマスのQ &amp; Aをつくるために必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。 [ワークシート]</li> <li>○ クニマスのQ &amp; Aをつくるために必要な情報を整理して内容を解釈しようとしている。[ワークシート]</li> </ul>

【生徒による活動の例】

第3時で使用したワークシート

<p>本時の目標 クニマスのQ&amp;Aをつくるために必要な情報を、比較や分類、関係付けなどして整理する。</p> <p>質問 田沢湖にしかないはずのクニマスが、なぜ西湖で生きていたのか。</p>	<p>質問に答えるために必要な情報</p> <p>文章に書かれている情報</p>	<p>クニマスの卵が、絶滅前の一九三五年に山梨県の西湖と本栖湖、一九三九年に滋賀県の琵琶湖に譲渡された……</p> <p>生物にはそれぞれ、<u>子孫を残していくために必要な環境</u>がある。</p> <p>田沢湖も西湖も、クニマスの産卵場所の周囲の水温は、四度だったのだ。</p> <p>移植先の西湖は、クニマスが<u>卵して生存できる条件を備えていた</u>のである。</p> <p>田沢湖と西湖の偶然の一致</p>
		<p>メモ</p> <p>クニマス<sup>①</sup>の卵が、絶滅前に西湖に譲渡されたゆすり渡す</p> <p>子孫を残すことができる環境<sup>①</sup></p> <p>卵を産むことができる場所の周りの水温が四度<sup>②</sup></p> <p>まとめる</p>

第4時で使用したワークシート

<p>本時の目標 クニマスのQ&amp;Aをつくるために必要な情報に着目して要約し、内容を解釈する。</p>	<p>Q 田沢湖にしかないはずのクニマスが、なぜ西湖で生きていたのでしょうか？</p>	<p>A クニマスが絶滅する前に、クニマスが子孫を残すことができる環境の西湖にクニマスの卵がゆすり渡されていたからです。子孫を残すことができる環境とは、水温です。西湖も田沢湖も、クニマスが卵を産む場所の周りの水温が四度と同じだったのです。</p>
<p>小学校六年生が理解できるQ&amp;Aにするために工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校六年生には難しいと思う表現は、国語辞典で言葉の意味を調べたり本文中の同じような表現を探したりして、できるだけ簡単な表現で書くようにした。</li> <li>情報が多すぎると、Q&amp;Aを読むのが大変なので、できる限り同じような情報はまとめ、本栖湖、琵琶湖など必要のない情報は使わないようにして、情報量が多くなりないようにした。</li> </ul>		

## 6 検証授業の成果と課題

第1学年では、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈する力を育成することをねらいとして、検証授業を行った。生徒がワークシートに記述した内容を分析した結果を以下に示す（対象生徒100名）。

	できた	どちらかといえばできた	どちらかといえばできなかった	できなかった
(1) 目的に沿って必要な情報を取り出すことができたか。	54.0%	24.0%	10.0%	12.0%
(2) 目的に沿って取り出した情報を整理することができたか。	48.0%	32.0%	8.0%	12.0%
(3) 情報から読み取ったことを基に自分の解釈をまとめることができたか。	46.0%	32.0%	16.0%	6.0%

### (1) 成果

ア 教材文を読む目的が明確となる学習課題の工夫

第4時で使用したワークシートでは、「田沢湖にしかないはずのクニマスがなぜ西湖で生きていたのでしょうか。」という質問に対して、「西湖にクニマスの卵がゆずり渡されていた」、「西湖も田沢湖も、クニマスが卵を産む場所の周りの水温が四度と同じ」という情報を正確に捉えて要約している。このように、約8割の生徒が、Q&Aをつくるという目的に応じて必要な情報に着目して要約することができた。これは、小学校6年生に読ませるクニマスについてのQ&Aをつくるという学習課題を設定することで、文章の内容を解釈するためのポイントとなる質問を明確にできたために、質問の答えを探すという具体的な目的をもって文章を読むことができたためと考えられる。

イ 第1次で学習した情報の整理の仕方を第2次で活用して教材文を読む単元構成の工夫

第3時で使用したワークシートでは、教科書に印を付けた情報から、更に必要だと思った情報だけを書き抜いている。その上で、「絶滅前に西湖に譲渡」と「子孫を残すことができる環境」の二つの情報は、どちらも回答に必要な情報と考え、どちらにも①と書き、一つにまとめようと考えている。この例のように、約8割の生徒が、優先順位を考えながら情報を整理して内容を解釈することができた。これは、第一次で学習した情報の整理の仕方を、すぐに第2次で活用できる単元の構成にしたことで、生徒にとって既習の知識及び技能を活用しやすくなったためと考えられる。

### (2) 課題

小学校6年生に読ませるクニマスについてのQ&Aをつくるという単元の学習課題を設定したが、どのような6年生をイメージしたらよいか戸惑ってしまう生徒の様子が見られた。また、生徒によって小学校6年生のイメージが異なるため、Q&Aがグループとしてまとまりのないものになったり、相互評価の際に的確な評価をすることが難しくなったりした。今回の検証授業では、小学校6年生という相手を教師が提示したが、どのような相手にQ&Aを読ませるかは、グループごとに決めさせ、自分たちが設定した相手にふさわしい質問と回答を工夫して作成させることも考えられる。その際は、グループごとに異なるQ&Aを作成することとなるが、それぞれのグループで設定した対象に対して必要な情報を適切にまとめられているかどうかを評価することとなる。また、グループではなく個人でQ&Aをつくらせることも可能である。単元のねらいと生徒の実態に応じて、学習課題の設定を工夫していくことが必要である。

〈指導事例 2：第 2 学年〉 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈する力を育成する指導の事例

1 単元名

先人や達人、名人の言葉を読んで同級生に助言しよう

～目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、自分の考えをまとめる～

2 単元の目標

目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、自分の考えをまとめることができる。

3 評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

- ・同級生の中学校生活を充実させる助言をするために、複数の文章から情報を取り出して整理し、適切な情報を得て自分の考えをまとめようとしている。

【読む能力】

- ・同級生の中学校生活を充実させる助言をするために、複数の文章から適切な情報を得て、自分の考えをまとめている。 ([思考力、判断力、表現力等] C読むこと(1)イ)

【言語についての知識・理解・技能】

- ・複数の文章から取り出した情報を、共通点や相違点に着目して、図や記号などを用いて整理している。 ([知識及び技能] (2)イ)

4 教材

- ・教材文（「達人のことば」（西岡常一、外尾悦郎「現代の国語 2」三省堂））
- ・補助教材（スポーツ選手等の自伝等を基に教師が作成）
- ・ワークシート

5 主な学習活動

(1) 単元の展開（全 4 時間）

		学習活動	指導上の留意点
第 1 次	第 1 時	○ 単元の学習の見通しをもつ。 ○ 補助教材を活用して情報の整理の仕方を理解する。	・単元の目標及び学習課題を理解させる。 ・情報の整理の仕方を理解させる。
第 2 次	第 2 時	○ 同級生がどのような中学校生活を送っているのかを知る。 ○ 教材文を読み、同級生の中学校生活を充実させる助言に必要な情報を取り出す。	・事前のアンケート結果を基に教師が作成した資料を示し、様々な中学校生活の悩みがあることに気付かせる。 ・同級生の中学校生活を充実させる助言に必要な情報を取り出すという目的を意識させる。
	第 3 時	○ 教材文以外の文章から必要な情報を幅広く収集する。 ○ 複数の文章から取り出した情報を共通点や相違点に着目して整理する。	・スポーツ選手等の伝記や名言集など参考となる文章を準備しておく。 ・第 1 時で学習した情報の整理の仕方を想起させ、活用させる。



第 4 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中学校生活を充実させるための助言をまとめ、相互評価をする。</li> <li>○ 単元の学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整理した複数の情報の関係を踏まえ、適切な情報を得て助言をまとめさせる。</li> <li>・単元の学習を通して自分ができるようになったことなどを振り返らせる。</li> </ul>
-------------	--	--

## (2) 指導の展開例

### 第1時

#### ① 本時の目標

複数の文章から取り出した情報を、共通点や相違点に着目して、図や記号などを用いて整理する。

#### ② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の目標及び学習課題を把握する。</li> <li>○ 補助教材を読む。</li> <li>○ 助言にふさわしい情報だと思う部分の要点を付箋に書き、共通点や相違点に着目してグループに分けて整理する。</li> <li>○ 整理した情報を基に、助言を考える。</li> <li>○ 本時の学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、自分の考えをまとめる力を身に付けるために、先人や達人、名人の言葉を読んで同級生の中学校生活を充実させる助言を考えるとという学習課題に取り組むことを理解させる。</li> <li>・「部活動で取り組んでいるスポーツの技能が上達せずに悩んでいる」生徒への助言を考えるとという目的で補助教材を読ませる。</li> <li>・助言にふさわしい情報だと思う部分に線を引かせて発表させ、その要点を教師がカードに書き、黒板に貼る。</li> <li>・「この情報と共通する情報はどれでしょうか。」などの発問に答えさせながら、共通点が認められる情報が書かれたカードを近付けて四角などの枠で囲んでグループに分けるとともに、グループ同士の関係を矢印等によって示す。</li> <li>・教師が示した例を参考にして、ワークシートに助言をまとめさせる。</li> <li>・文章から必要な情報を取り出して整理する際に大切だと思ったことなどを考えさせ、数名に発表させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 複数の文章から取り出した情報を、共通点や相違点に着目して、図や記号などを用いて整理している。 〔ワークシート〕</li> </ul>

## 第2時

### ① 本時の目標

同級生の中学校生活を充実させる助言をするために、複数の文章から情報を取り出して整理する。

### ② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・[評価方法]
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習の見通しをもつ。</li> <li>○ 同級生が中学校生活で悩んでいることを知り、助言したいものを選ぶ。</li> <li>○ 二つの教材文を読み、同級生の中学校生活を充実させる助言に必要な情報を取り出して整理する。</li> <li>○ 本時の学習を振り返る。</li> <li>○ 次時の予告をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同級生の中学校生活を充実させる助言にふさわしい情報を得るために教科書等の文章を読むことを確認する。</li> <li>・ 事前のアンケート結果を基に教師が作成した資料を示し、その中から自分が助言したい悩みを選ばせる。</li> <li>・ 自分が選んだ悩みへの助言に必要なだと思ふ情報を、付箋1枚につき一つずつ書かせる。</li> <li>・ 取り出した情報の共通点や相違点に着目させ、第1時と同様のワークシートに整理させる。</li> <li>・ どのようにして情報を収集するとよいかを振り返らせて数名に発表させ、効果的な情報の収集方法を共有させる。</li> <li>・ 学校図書館に所蔵していない本を持参して使用してもよいことを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 同級生の中学校生活を充実させる助言をするために、複数の文章から情報を取り出して整理しようとしている。 [ワークシート]</li> </ul>

## 第3時

### ① 本時の目標

複数の文章から取り出した情報を、共通点や相違点に着目して、図や記号などを用いて整理する。

### ② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・[評価方法]
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習の見通しをもつ。</li> <li>○ 同級生の中学校生活を充実させる助言に必要な情報を整理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1時で学習した情報の整理の仕方を活用して、複数の文章から得た情報を整理することを理解する。</li> <li>・ スポーツ選手等の伝記や名言集など参考となる資料を準備し、幅広く情報を収集させる。</li> <li>・ 必要だと思った情報を付箋にメモさせ、共通点や相違点に着目して第1時と同様のワークシートに整理させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 複数の文章から得た情報を、共通点や相違点に着目して、図や記号などを用いて整理している。 [ワークシート]</li> </ul>

○ 本時の学習を振り返る。	・ 第1時で学習した情報の整理の仕方などのように活用したかを振り返らせ、学びが生きたことを自覚させる。	
---------------	---	--

#### 第4時

##### ① 本時の目標

同級生の中学校生活を充実させる助言をするために、複数の文章から適切な情報を得て、自分の考えをまとめる。

##### ② 本時の学習

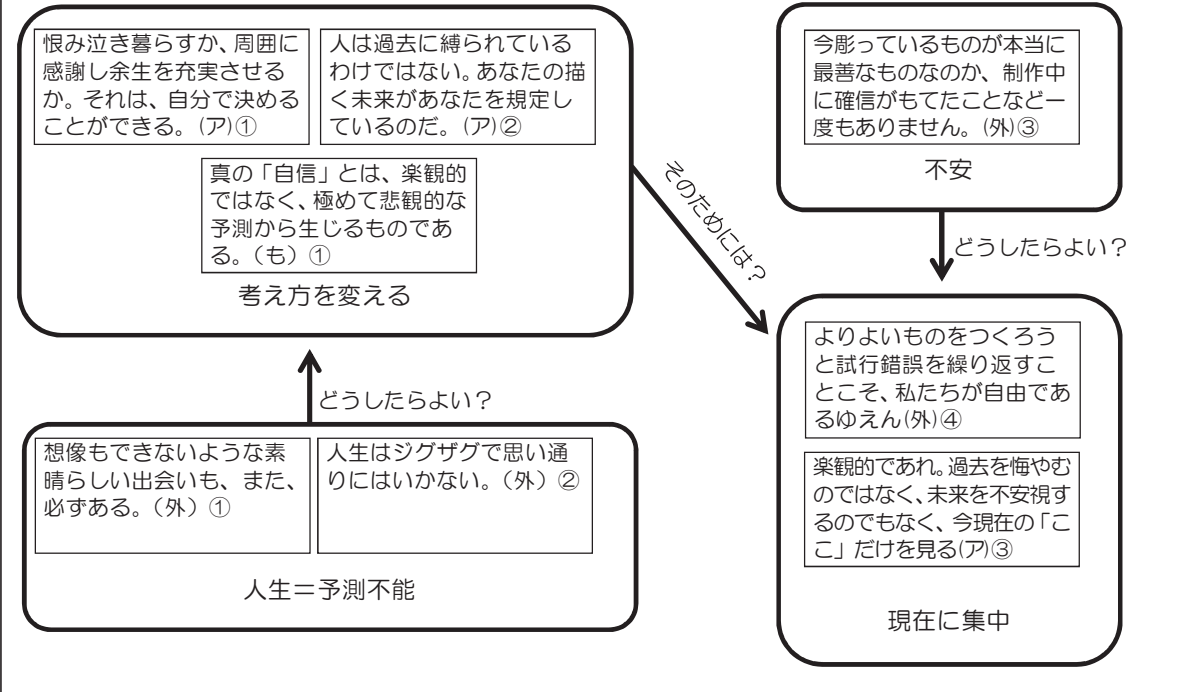
学習活動	指導上の留意点	○評価規準・〔評価方法〕
○ 学習の見通しをもつ。	・ 整理した複数の情報の関係を踏まえ、同級生の中学校生活を充実させるための助言にふさわしい情報を得て、自分の考えをまとめることを理解させる。	
○ 情報の適否を見極めるポイントを確認する。	・ 「ふさわしい情報」とは、どのようなものなのか、第1時の学習を想起させる。	
○ 前時に整理した情報を基に、同級生への助言にふさわしい情報を選び、自分の考えをまとめる。	・ 情報を整理した前時のワークシートを基に、同級生の中学校生活を充実させる助言にふさわしい情報を選ばせる。	○ 同級生の中学校生活を充実させる助言をするために、複数の文章から適切な情報を得て、自分の考えをまとめている。 〔ワークシート〕
○ ワークシートに書いた助言をグループ内で交換して相互評価をする。	・ 目的にふさわしい情報を得ているか、複数の情報を関連付けて助言をまとめているかという観点で相互評価をさせる。	○ 同級生の中学校生活を充実させる助言をするために、適切な情報を得て自分の考えをまとめようとしている。 〔ワークシート〕
○ 単元の学習を振り返る。	・ 本単元の学習を通して自分ができるようになったことや、学習したことを今後どのように活用したいかをまとめさせ、数名に発表させる。	

【生徒による活動の例】

第3時で使用したワークシート

本時の目標 複数の文章から得た情報を、共通点や相違点に着目して、図や記号などを用いて整理する。

助言の相手：「進路のことを考えると不安になり、やる気が起きなくなる」ことに悩んでいる同級生



※ (ア)、(外)、(も) は、資料の著者名を省略して記したものの

第4時で使用したワークシート

<p>本時の目標 同級生の中学校生活を充実させる助言をするために、複数の文章から適切な情報を得て、自分の考えをまとめる。</p> <p>相手：「進路のことを考えると不安になり、やる気が起きなくなる」ことに悩んでいる同級生</p>	<p>私からの助言</p> <p>あなたは、近い未来に不安を抱き、少し悲観的になっているのではないだろうか。心理学者のアドラーさんは、「楽観的であれ。過去を悔やむのではなく、未来を不安視するのでもなく、今現在の『ここ』だけを見るのだ。」と述べています。あなたの中学校生活を充実させるために、今できることに集中してみましょう。</p> <p>彫刻家の外尾悦郎さんは、サクラダ・ファミリアの石像を制作しているとき、「今膨らんでいるものが本当に最善なものなのか、制作中に確信がもてたことなど一度もありません。」と言っています。私も、今、自分が勉強したり部活動で練習したりしていることが、自分の進路にとって本当に役に立つのかどうかは分かりません。しかし、外尾さんは、夢中で仕事をしているうちに時間がたつのを忘れて、いつの間にかどんな彫刻をつくっていったさうです。私も、部活の練習を始める前はあまりやる気が起きなくても、練習を始めて体を動かしているうちに、いつの間にか時間を忘れて取り組んでいることがあります。</p> <p>きっとあなたは未来のことばかりを見つめているのではないでしょうか。未来ではなく、今を見つめて、自分ができることから取り組んでみてください。</p>	<p>助言をまとめるときに気を付けたこと</p> <p>相手は将来を考えて不安になっているので、(ア)③の情報が役立つと考えた。しかし、「今現在の『ここ』だけを見る」というのが伝わりにくいと考え、(外)③の情報を基に、外尾さんや自分の経験を例にして、相手が「よし、やってみよう。」と思えるように助言をまとめた。</p>
--	---	---

## 6 検証授業の成果と課題

第2学年では、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈する力を育成することをねらいとして、検証授業を行った。生徒がワークシートに記述した内容を分析した結果を以下に示す（対象生徒90名）。

	できた	どちらかといえば できた	どちらかといえば できなかった	できなかった
(1) 目的に沿って必要な情報を取り出すことができたか。	31.9%	54.9%	11.0%	2.2%
(2) 目的に沿って取り出した情報を整理することができたか。	30.8%	53.8%	13.2%	2.2%
(3) 情報から読み取ったことを基に自分の解釈をまとめることができたか。	33.0%	49.4%	15.4%	2.2%

### (1) 成果

#### ア 教材文を読む目的が明確となる学習課題の工夫

第3時で使用したワークシートでは、8枚の付箋が貼られている。この生徒は、これらの情報から、同級生の中学校生活を充実させる助言としてより適切なものはどれかということに基づいて情報を取捨選択し、第4時で使用したワークシートのように自分の助言をまとめている。このように、約8割の生徒が複数の資料から適切な情報を得て、それらの情報を解釈し、助言をまとめることができた。これは「同級生の中学校生活を充実させるための助言を考える」という相手や目的を明確にした学習課題を設定し、更に具体的な悩みを基に助言を考えさせることで、情報を取捨選択する基準が明確になり、その基準に沿って適切な情報を得ることができるようになったためと考えられる。

#### イ 第1次で学習した情報の整理の仕方を第2次で活用して教材文を読む単元構成の工夫

第3時で使用したワークシートでは、複数の文章から得た情報の共通点を見だしてグループ分けをしている。この生徒は、グループに分ける過程で、「不安になり、やる気が起きなくなる」同級生への助言に、「楽観的であれ。……」という情報と「今彫っている……」という情報とがふさわしいと考えた。このように適切な情報を取捨選択できたのは、第1次で教師が教えた方法を活用することができたからだと考えられる。中学生にとって、学習してから時間が経過した知識及び技能を活用することには課題がみられるが、本単元のように、第1次で学習したことを第2次で活用できるように単元を構成することは、生徒が既習の知識及び技能を活用できるようにするために効果的であったといえる。

### (2) 課題

第4時で使用したワークシートでは、教材文から得た情報は、その言葉を発した背景にも触れながら助言をまとめている。しかし、自分で探した文章から得た情報の場合、情報の背景やその言葉を発した人物がどのような人物なのか、どのような状況で発した言葉なのかにまで触れずに言葉のみを引用している。このような事例は、他にも多く見られた。これは、多くの生徒が、名言集のような引用しやすい文章から情報を得たため、断片的な情報しか得られなかったことによるものと考えられる。言葉の背景まで考えさせるためには、教材文のような談話や伝記などを読み込ませる必要がある。その場合は、限られた授業時間の中で十分に文章を読み込ませることが難しいことも考えられるので、他教科等での学習や日頃からの読書指導などと関連付けて指導していくことが大切である。生徒や学校の実態に応じて、より効果的な学習課題や教材を開発していく必要がある。

〈指導事例3：第3学年〉 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考える力を育成する指導の事例

1 単元名

新聞の論説に対する意見を書こう

～文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考える～

2 単元の目標

文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。

3 評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

- ・新聞の論説に述べられている内容の信頼性や客観性を吟味しながら読み、自分の考えを書こうとしている。

【読む能力】

- ・新聞の論説を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。  
(〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと(1)イ)

【言語についての知識・理解・技能】

- ・新聞の論説に述べられている内容の信頼性や客観性について、複数の情報を照らし合わせながら確かめている。  
(〔知識及び技能〕(2)イ)

4 教材

- ・教材文（生徒が選んだ新聞の論説）
- ・補助教材（教科書の文章を基に教師が作成）
- ・論説A（P新聞の論説を基に教師が作成）
- ・論説B（Q新聞の論説を基に教師が作成）
- ・ワークシート

5 主な学習活動

(1) 単元の展開（全4時間）

		学習活動	指導上の留意点
第1次	第1時	○ 単元の学習の見通しをもつ。 ○ 主張と根拠との関係や情報の信頼性の確かめ方を理解する。	・単元の目標及び学習課題を理解させる。 ・文章に書かれている主張と根拠との関係を明確にし、情報の信頼性を確かめる方法を理解させる。
	第2時	○ 論説Aを読み、主張と根拠との関係を明確にし、述べられている内容の信頼性や客観性について論説Bを基に吟味する。 ○ 確認したことを基に、論説Aに対する意見を書く。	・主張とその根拠を明確にさせ、疑問点を挙げさせる。 ・文章に表れているものの見方や考え方について、納得や共感ができるかを考えさせる。



第2次	第3時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループごとに選んだ新聞の論説を読み、主張と根拠との関係を明確にする。</li> <li>○ 論説に述べられている内容の信頼性や客観性について、インターネット等で調べた情報を基に吟味する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1時や第2時で学習した内容を活用させる。</li> <li>・ インターネット等を活用して、複数の情報源から収集した情報を照らし合わせて確かめさせる。</li> </ul>
	第4時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループで話し合ったことを基に自分の意見を書き、相互評価をする。</li> <li>○ 単元の学習について振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章に表れているものの見方や考え方について納得できるかどうかを考えさせる。</li> <li>・ 単元の学習を通して自分ができるようになったことなどを振り返らせる。</li> </ul>

## (2) 指導の展開例

### 第1時

#### ① 本時の目標

文章に述べられている内容の信頼性や客観性の確かめ方を理解する。

#### ② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・[評価方法]
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の目標及び学習課題を把握する。</li> <li>○ 二つの文による文章を読み、主張と根拠との関係を図で表す。</li> <li>○ 図で示した主張と根拠との関係を踏まえて情報の信頼性や客観性についての課題を見付ける。</li> <li>○ 情報の信頼性や客観性の確かめ方を理解する。</li> <li>○ 本時の学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考える力を身に付けるために、新聞の論説に述べられている内容の信頼性や客観性を吟味して自分の意見を書くという学習課題に取り組むことを理解させる。</li> <li>・ 補助教材を使用し、主張と根拠との関係を考えさせ、全体で確認させる。</li> <li>・ 根拠とされている情報の事実関係や発信元などに着目させ、情報の信頼性や客観性についての課題を見付けさせる。</li> <li>・ 「この課題はどのようにして解決できますか。」などと発問しながら、複数の情報源から様々な情報を収集して照らし合わせる方法を理解させる。</li> <li>・ 文章に述べられている内容の信頼性や客観性を確かめる上で大切だと思うことなどをまとめさせる。</li> <li>・ 各教室に教師が用意した複数の新聞の論説の切り抜きを昼休み等に読んでよいことを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章に書かれている内容の信頼性や客観性の確かめ方を理解している。 [ワークシート]</li> </ul>

## 第2時

### ① 本時の目標

新聞の論説に述べられている内容の信頼性や客観性を吟味しながら読み、自分の考えを書く。

### ② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・[評価方法]
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の目標を確認する。</li> <li>○ 論説Aを読み、主張と根拠との関係を明確にし、述べられている内容の信頼性や客観性についてインターネットで調べた情報や他の新聞社の論説Bに述べられている情報と比較する。</li> <li>○ 確認したことを基に、論説Aの解説文を書く。</li> <li>○ 本時の学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞の論説に述べられている内容の信頼性や客観性を吟味しながら読むことを理解させる。</li> <li>・論説Aを読ませ、「この論説の主張は何ですか。」などと発問し、主張と根拠との関係を明確にさせる。</li> <li>・主張と根拠との関係に着目し、述べられている内容や信頼性について課題を見付けさせ、インターネットで調べた情報や論説Bの情報と照らし合わせながら確かめさせる。</li> <li>・確かめたことを踏まえて、論説Aに表れているものの見方や考え方について、納得や共感ができるか否かを考えさせ、自分の考えを書かせる。</li> <li>・新聞の論説を読む上で大切だと思うことなどをまとめさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新聞の論説に述べられている内容の信頼性や客観性を吟味しながら読み、自分の考えを書こうとしている。[ワークシート]</li> </ul>

## 第3時

### ① 本時の目標

新聞の論説に述べられている内容の信頼性や客観性について、複数の情報を照らし合わせながら確かめる。

### ② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準・[評価方法]
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の目標を確認する。</li> <li>○ グループごとに意見を書く新聞の論説を決める。</li> <li>○ 各グループで論説の主張と根拠との関係を明確にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞の論説を読み、内容の信頼性や客観性を吟味することを理解させる。</li> <li>・教師が用意した論説から自分たちが読みたい論説を一つ選ばせる。</li> <li>・様々な新聞の論説の切り抜きを用意しておく。</li> <li>・第1時及び第2時の学習を想起させ、主張と根拠との関係を個人でワークシートにまとめさせた後、グループで話し合わせる。</li> </ul>	

<p>○ 主張と根拠との関係に着目し、述べられている内容の信頼性や客観性を吟味する。</p> <p>○ 本時の学習を振り返る。</p>	<p>・主張との根拠との関係に着目し、述べられている内容の信頼性や客観性について課題を見付けさせ、インターネット等を活用して、複数の情報源から収集した情報を照らし合わせて確かめさせる。</p> <p>・第1時及び第2時で学習した情報の整理の仕方をどのように活用したかを振り返らせ、学びが生きたことを自覚させる。</p>	<p>○ 新聞の論説に述べられている内容の信頼性や客観性について、複数の情報を照らし合わせながら確かめている。 [ワークシート]</p>
---	---	--

#### 第4時

##### ① 本時の目標

新聞の論説を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考える。

##### ② 本時の学習

学習活動	指導上の留意点	○評価規準(評価方法)
<p>○ 本時の目標を確認する。</p> <p>○ グループごとに、論説に表れているものの見方や考え方について考える。</p> <p>○ 自分の考えを書く。</p> <p>○ 他の論説に対する意見を書いた生徒と互いの意見を書いた文章を読み合い、相互評価をする。</p> <p>○ 単元の学習について振り返る。</p>	<p>・新聞の論説に表れているものの見方や考え方について考えることを理解させる。</p> <p>・前時の学習を踏まえ、論説に表れたものの見方や考え方について、納得や共感ができるか否かなどを個人で考えさせた後、グループで話し合わせる。</p> <p>・話し合ったことを基に、各自で論説に対する意見をワークシートに書く。</p> <p>・他のグループのメンバーとグループを入れ替え、他の論説に対する意見を書いた文章を三つ程度読ませる。</p> <p>・論説の主張と根拠との関係を適切に捉えているか、根拠の信頼性や客観性に着目して自分の意見を述べているかという観点から相互評価をする。</p> <p>・本単元の学習を通して自分ができるようになったことや、学習したことを今後どのように活用したいかをまとめさせ、数名に発表させる。</p>	<p>○ 新聞の論説を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。 [ワークシート]</p> <p>○ 新聞の論説に述べられている内容の信頼性や客観性を吟味しながら読み、自分の考えを書こうとしている。 [ワークシート]</p>

【生徒による活動の例】

第3時で使用したワークシート

主張  
日本は、海洋プラスチックごみの対策を先導する責任と役割を果たすべきだ。

根拠

発信元は？

日本はレジ袋の使用量が年間300億枚を超える「使い捨て大国」

他国と比較しているのか？  
裏付ける事実は何か？

周辺の海に年間6万トンのプラスチックごみを流出させているとの試算がある。

発信元は？

調べたこと

出典不明

日本のプラスチック廃棄物の処理（2013年）

- リサイクル 25%
- 熱回収 57%（発電、燃料、熱利用）
- 焼却 10%、埋立て 8%

（「マテリアルリサイクルによる天然資源消費量と環境負荷の削減に向けて」平成28年5月 環境省）

欧州（2016年）

- リサイクル 31.1% ・熱回収 41.6%
- 埋め立て 27.3%

Z国（2014年）

- リサイクル 9.5% ・焼却 15%
- 埋め立て 75%

（V新聞デジタル 平成30年5月22日）

日本は30位。1位はZ国 132~353万トン。（2010年の推計）（「プラスチックを取り巻く国内外の状況」平成30年8月 環境省）

○ 自分たちが選んだ論説の主張、根拠、調べたことを書こう。

本時の目標  
新聞の論説に述べられている内容の信頼性や客観性について、複数の情報を照らし合わせながら確かめる。

第4時で使用したワークシート

○ これまでの学習を基に、新聞の論説に対する意見を書こう。

本時の目標  
新聞の論説を批判的に読みながら、文章に表れているものを見方や考え方について考える。

この論説では、「日本は、海洋プラスチックごみの対策を先導する責任と役割を果たすべきだ。」と主張している。その根拠は、日本は、「使い捨て大国」であり、周辺の海に年間六万トンのプラスチックごみを流出させていることである。

私はこの主張には賛成だが、「日本が使い捨て大国だから」という考え方には納得できない。なぜなら、環境省の資料（平成二十八年五月）によると、平成二十五年の日本のプラスチックごみのうち八割が埋め立てられているが、V新聞の電子版記事（平成三十年五月二十二日）によると、日本より高い比率で埋め立てを行っている国もあると考えられるからである。使い捨てかどうかは、レジ袋の使用枚数ではなく、有効利用できているかどうかという視点で考える必要があると私は思う。また、プラスチックごみの流出量が年間六万トンと書かれると、日本がものすごい量を流出しているような印象を受けるが、環境省の資料（平成三十年八月）によると、日本は世界三十位である。

もちろん、日本のプラスチックごみの埋め立てが少なく、流出量が三十位だからよいというわけではない。しかし、強い印象を与える数値だけに着目して日本は他国に比べてプラスチックごみを大量に流出させていると考え、それを根拠にして対策をしっかりとすべきだという考え方はおかしいと思う。

環境省の資料（平成二十八年五月）によると、日本ではプラスチックごみの十八割がリサイクル未利用（焼却、埋め立ての処理）である。また、リサイクル処理のうち、他国への輸出による処理が約七割である。私は、この事実を根拠として、日本の海洋プラスチックごみの対策を考えるべきだと思う。つまり、リサイクルの未利用をなくし、プラスチックごみのリサイクルを他国に頼るのではなく、国内でできるようにすることだ。このような考え方で、日本は海洋プラスチックごみの対策を先導する責任と役割を果たすべきだと私は考える。

## 6 検証授業の成果と課題

### (1) 成果

第3学年では、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考える力を育成することをねらいとして、検証授業を行った。生徒がワークシートに記述した内容を分析した結果を以下に示す（対象生徒 107 名）。

	できた	どちらかといえばできた	どちらかといえばできなかった	できなかった
(1) 目的に沿って必要な情報を取り出すことができたか。	44.9%	42.1%	11.2%	1.8%
(2) 目的に沿って取り出した情報を整理することができたか。	39.3%	37.4%	19.6%	3.7%
(3) 情報から読み取ったことを基に自分の解釈をまとめることができたか。	35.5%	37.4%	23.4%	3.7%

#### ア 教材文を読む目的が明確となる学習課題の工夫

第3時で使用したワークシートでは、主張と根拠を適切に読み取っている。また、論説が根拠としている「使い捨て大国」や「年間6万トンのプラスチックごみ」について、他の新聞社の記事や環境省の資料を基に日本のリサイクル率や他国のプラスチックごみの流出量等を調べ、別の視点から考えようとしている。その上で、この論説に表れている考え方に納得できるかどうかを考えている。このように、約7割の生徒が論説に表れているものの見方や考え方について考えることができた。これは、新聞の論説に対して意見をもつという学習課題によって、主張を読み取るだけでなく、主張を支える根拠の確かさについて生徒が課題を見付け、多様な立場から発信されている情報を調べることを通して、自分が選んだ論説の考え方とは異なった視点から考えることができたためと考えられる。

#### イ 第1次で学習した情報の整理の仕方を第2次で活用して教材文を読む単元構成の工夫

第3時で使用したワークシートでは、論説から主張と根拠を簡潔にまとめ、その根拠の確かさについて吟味している。このように必要な情報として主張と根拠を読み取ることは、約9割の生徒ができていた。これは、第1次で、主張と根拠がそれぞれ一文で表されている例文や主張と根拠を読み取りやすく教師が構成した論説を教材とした学習によって、主張と根拠の基礎的・基本的な読み取り方に生徒が習熟したためと考えられる。また、主張と根拠の信頼性や客観性について、複数の情報源から収集した様々な情報を照らし合わせながら確認することは、約8割の生徒ができていた。これも、第1次で、課題を見つけた根拠についてインターネット等で複数の情報源から様々な情報を収集する学習を行ったことで、根拠の信頼性や客観性を確かめる方法を活用することができたためだと考えられる。

### (2) 課題

主張と根拠を取り出して整理できた生徒は約9割であったが、それを踏まえて文章に表れたものの見方や考え方について考えることができた生徒は約7割であった。新聞の論説を批判的に読むためには、多様な立場からの情報を収集して吟味することが必要となる。しかし、生徒が選んだ論説によっては、扱っている題材について多様な立場からの情報を探ることが難しい場合もあった。このような場合、論説が示している根拠について様々な視点から考えることに課題がみられた。今回は、生徒が興味・関心をもった論説を一つ選ばせたが、多様な立場からの情報が発信されている題材を扱った論説を教師が事前に複数用意しておくなど、生徒の実態や身に付けさせたい資質・能力等に応じて学習活動を工夫することが必要である。



## VI 研究のまとめ

本研究では、「目的に応じて文章を読み、的確に内容を解釈する力を育成する指導の工夫」を研究主題とし、仮説に基づき検証を行った。以下、研究の成果と課題をまとめる。

### 1 研究の成果

#### (1) 学習課題の工夫の有効性

教材文を読む目的が明確となる学習課題を工夫することで、目的意識をもって教材文から必要な情報を得るために主体的に文章を読もうとする姿が多く見られた。これは、相手や目的を明確にした学習課題によって、必要な情報を取捨選択するための基準やどのように情報を解釈したらよいか具体的になり、見通しをもって文章を読むことができたためだと考えられる。その結果、目的に応じて必要な情報を得て、適切に解釈をすることができたといえる。

#### (2) 単元構成の工夫の有効性

文章から得た情報を整理させることで、生徒は学習課題の解決に必要な情報を判別し、それらの情報を基に自分の考えをまとめることができた。これは、補助教材を用いた第1次の学習によって、生徒が情報の整理の仕方を身に付けることができたためだと考えられる。その結果、文章から取り出した情報の共通点や相違点などに着目して情報を整理しながら、目的に応じて情報と情報との様々な関係を的確に把握し、解釈することができるようになったと考える。

以上のことから、教材文を読む目的が明確となる学習課題を工夫するとともに、第1次で学習した情報の整理の仕方を第2次で活用させる単元を構成して指導することは、目的に応じて文章を読み、的確に内容を解釈する力の育成に有効であると考えられる。

### 2 研究の課題

#### (1) 身に付けさせたい力や教材の特質に応じた学習課題の設定

本研究では、相手や目的を明確にした学習課題を設定したが、ねらいに沿った資質・能力を身に付けさせることができるような学習課題とするまでに多くの議論を必要とした。学習課題によって、生徒が読み取る情報や解釈のまとめ方が変わってくるため、生徒の思考の過程を、事前に教師が十分に想定した上で、ねらいに沿った学習課題となっているかどうかを吟味する必要がある。そのためにも、学校や地区の教科部会など複数の教師で教材研究をする機会をもつことが大切である。

#### (2) 情報を整理したことを踏まえて適切に解釈をまとめさせる手だての工夫

生徒のワークシートを分析すると、読み取った情報をつなぎ合わせて表面的に解釈をまとめているようなものが2割程度見られた。整理した情報を互いに関連付けて解釈させる際には、単に情報と情報とを結び付けるだけでなく、様々な知識や経験とも結び付けさせることを通して、内容の理解を深めさせるような手だてを工夫することが必要である。



# 平成 30 年度 教育研究員名簿

## 中学校・国語

学 校 名	職 名	氏 名
北 区 立 滝 野 川 紅 葉 中 学 校	教 諭	米 村 薫
荒 川 区 立 第 三 中 学 校	教 諭	青 木 康 乃
荒 川 区 立 第 四 中 学 校	主 任 教 諭	佐 藤 三 枝
葛 飾 区 立 新 小 岩 中 学 校	主 幹 教 諭	福 住 貴 夫
江 戸 川 区 立 小 岩 第 三 中 学 校	主 任 教 諭	増 子 恵 子
江 戸 川 区 立 小 岩 第 四 中 学 校	主 任 教 諭	高 橋 克 彰
小 平 市 立 小 平 第 二 中 学 校	教 諭	◎新 堂 史 彦
福 生 市 立 福 生 第 二 中 学 校	主 任 教 諭	小 口 寿 輝
羽 村 市 立 羽 村 第 一 中 学 校	主 任 教 諭	菊 地 康 江

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部義務教育指導課  
指導主事 鈴木 太郎

平成 30 年度

教育研究員研究報告書  
中学校・国語

東京都教育委員会印刷物登録  
平成 30 年度 第 135 号

平成 31 年 3 月 発行

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号  
電話番号 (03) 5320-6849  
印刷会社 康印刷株式会社